

TATEBAYASHI

New Lot LP-1 Equalizer Pre-amplifier Standard Version II

アナログ再生の起点

アナログレコードは、現在の時点においても尚、その存在価値を失うことはないでしょう。現代の純オーディオに於ける再生音楽の世界は、すべての時代を取り込みながら、真に価値ある再生音質を求めて拡大しているからです。アナログレコードでは、製造・再生の過程に於いて、電気系による信号処理だけではなく（マイクロフォン以外にも）機械的振動系による信号処理があるわけで、それゆえ、CD・DVD等では表現できないアコースティックな再生音を可能にしていると思われれます。



New Lot LP-1 Equalizer Pre-amplifier Standard Version II

LP-1 プリアンプでは、過去の事例に捉われず、イコライザーアンプに適した真空管^{注1}を新たに探し、基本特性^{注2}を重視したシステムを構築するとともに、内外の所謂ビンテージパーツを多用して音作りを極めています。LP-1 プリアンプを起点としたアナログレコード再生システムを構築し、改めてその可能性を検証してみてください^{注3}。アナログレコードの歴史的遺産としての価値を再認識していただけるはずです。

^{注1} イコライザー回路=6AM4（単三極管）+E86C（単三極管）、フラットアンプ=6FD7（複合三極管）、整流管=6X4

^{注2} テクニカルインフォメーションを御参照下さい。

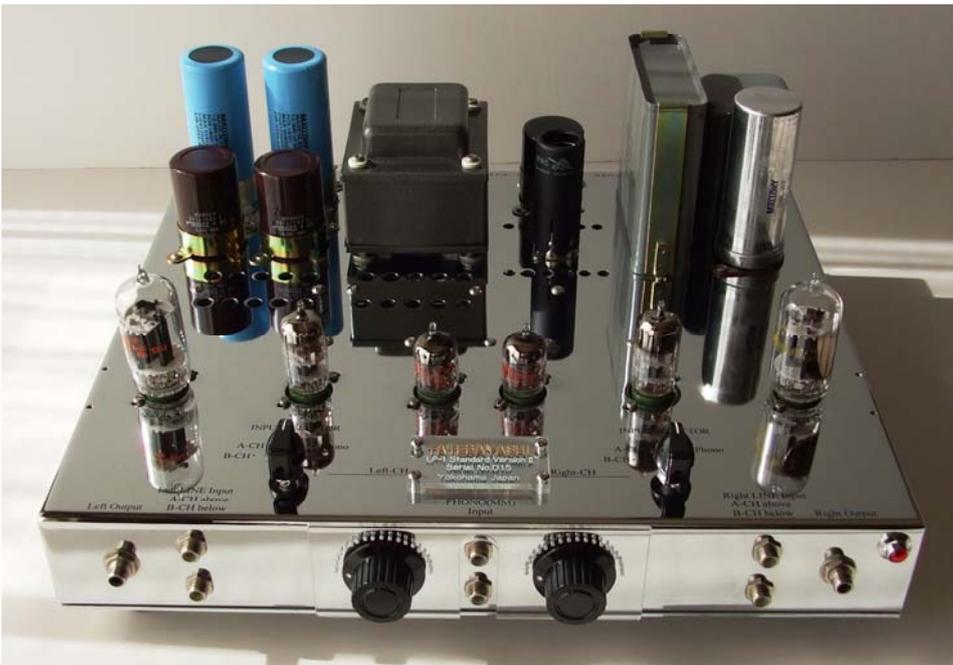
^{注3} 製作にあたっては、メインアンプは DCH-10 PX25 Version, Siemens EdPP Monaural を、その他、JBL C34(130A/175DLH/N1200 Gray), ユートピア ファミリーキングタンノイ(DC386), ガラード301, パートリッジTH7834M k II, SME3012, オルトフォン 297, SPUA等を使用して行っています。

品目	消費税(5%)込定価
New Lot LP-1 Equalizer Pre-amplifier Standard Version II	¥448,000.-

New Lot LP-1 Equalizer Pre-amplifier Standard Version II

↓左右独立の入力セレクター及び音量調整, PHONO入力1系統, LINE入力2系統, 出力1系統

仕様



↓電源入力2系統(いずれか一方を選択)



- イコライザーアンプ
2段増幅CR型
- フラットアンプ
1段増幅+1段カソードフォロワー送り出し
- 電源回路
B電源回路; 整流管整流
真空管ヒーター回路; フリッジタイプオート整流
- 音質コントロール
無し
- 利得
フラットアンプ利得=22dBV
イコライザー使用時=52dBV
(イコライザーアンプ部利得/1kHz=30dBV)
- イコライザーアンプ部最大許容入力
歪率 (THD%) < 2.3%の時,
500mV (実効値) / 1kHz
- 1V (実効値) / 1kHz 出力時の歪率 (THD%)
フラットアンプ部 THD% < 0.008%
イコライザー使用時 THD% < 0.07%
- S/N比
[フラットアンプ部]
1kHz・2V入力・1V出力時
93dB以上
[イコライザー使用時]
1kHz・100mV入力・1V出力時
88dB以上
- 残留ノイズ (A補正)
0.015mV以下
- 出力インピーダンス
270~500Ω調整可能(要パーツ変更)
- シャーシ/真空管ケージ
2mm厚鋼板クロームメッキ仕上げ
- 電源, 消費電力
AC100V 50・60Hz, 30W
- 大きさ
370(W) x 360(D) x 175 mm(H)
- 重さ
約10.5kg

§ PHONOモード使用時の適切なトータルゲイン設定

PHONOモード使用時の本機のゲインは約52dBです(マランツ7=66.4dB, マッキントッシュC22=62.9dB).

本機を次のオーディオシステムと組み合わせる時, トータルゲインで過不足のないシステムとなります;

例) カートリッジ: ortofon SPU-A(出力電圧=0.2mV) 又は DENON DL-103LC II (出力電圧=0.25mV)

昇圧トランス: PARTRIDGE TH-7834

SPUではLOW(38dB=79倍), DL-103LC IIではHIGH(32dB=40倍)を選択

パワーアンプ: ゲイン≒30dB

スピーカーシステム: 効率≒92dB

オーディオシステム全体とのバランスを考えて御導入/御使用ください.

§ 音量調整ボリュームの操作性

音量調整は左右独立となっており, 慣れるまではステレオシステムでの左右音量バランスがとりづらいのですが, 性能・保守及び音質の点で有利な方式となっています.

☆☆☆ 製品測定データ, その他につきましてはテクニカルインフォメーションをご覧ください ☆☆☆